

3/4 JR東日本と第2回 賃金改善・夏季手当交渉!

会社の現状認識

- 足元の状況では、年末年始のご利用状況は前年度を上回り、1月の鉄道営業収入は対前年約110%となっているものの、平日の新幹線におけるご利用の回復の遅れや能登半島地震の影響などから中長距離収入は当初の計画を下回っている状況である。
- 引き続き、「変革2027」が想定した人口減少など当社を取り巻く経営環境は厳しい状況にあるということを改めて認識する必要がある。
- いわゆる基準内賃金の上げは、長期にわたり総額人件費に多大な影響を及ぼすことから、足元の状況を踏まえつつ、中長期的な動向等を勘案し、慎重な判断が必要である。
- 夏季手当については、主として直近の業績動向を念頭に先々の見通しや社会情勢に加え、これまで実施してきた処遇改善などの状況も踏まえて総合的に判断するものであると考えている。
- スケジュール感については、3月の出来る限り早い時期に判断し、社員へ伝えていくことが重要であると考えている。真摯かつ精力的に必要な議論を早期の合意を念頭に、スケジュール感を持って進めていきたいと考えている。

【国労】黒字化は社員の努力であり、賃金で還元するべきである。

【会社】融合と連携に向けて社員の皆様が一人ひとりチャレンジして頂き、その結果が積み重なって会社の業績にも繋がっており、改めてお礼を申し上げる。賃金も魅力のひとつではあるが、トータルで考え、当社で働いて良かったと思えるようにしたい。

【国労】現場は人が減っている中で、超勤をして一生懸命やっている。社員の頑張りに応じて欲しい。

【会社】国鉄採用の方が退職となり、職場を支えて頂いていることについて感謝申し上げます。機械化、システム化、業務の効率化などを同時に進めていき、グループ総体として生産性向上を実現していく必要がある。

感謝だけではなく賃金で還元を!

人への投資を強く求める!